漢和
二躰
蓮亭畫讃集

序

國風詠諧。彼潛栖一派。而
其心自識識。不敢與知家
去流異爲。但玉觴景寓情

之工。以單辭攄精神者。世之
俗説俚諺。亦擇取而不捐焉。
豈翩在臣戲謔之際也哉。
吉宗支族三宅嘯山子。風嗜

此道。蹤武桃青其角之法。
稱一時宗匠。遊方行脚。履不
容武也。近世徘流。互立門戸。
終玉白馬非白堅白同異之

雜。然吾儒所未聞未見者。心
服迥別矣。惜乎。今茲亨和
紀元夏四月。嘯山子易簀。
子李流。就其遺藁。選出條
贊題詠。〻類百餘條。別為
一集。殯將繡梓。以與余同
宗之好。徵序言。因再考〻〻
風流清韻。繫於紙上。於

是聊作短引。致景仰之私云。

古子和新元辛酉季夏

大阪宅如幾撰并書

凡例

此集ハ老人他ノ乞ニ任テ筆ヲ揮テカイツケタルヲ選テ出シハベルナリ都テ書画讃ヲ請ハルヽニ其請ヘルヽ人ハイト心易ゲニ思セトモ亦乞ルヽ身ニシテハ不易モノナレバ名家ノ歴々スラ閑々數枚ノ書損アリトゾ老人ハソユニ心ヲトヾメズ初メヨリ画アレバ其画ニ向テ心ノ趣クマニカイツケラルレバ工アリ拙アリ深キアリ浅キアリサスレバ其時ニ乞フ人ノ幸不幸

ナリトモ言ツベシ老人俳諧ニ名アリテ六十余年花ニ醉テハ扇ヲヨゴシ月ノタニハ短冊ヲ費ヤシ雪ノ曙ニハ樓ノ掛幅ニ即興ヲセシナドアゲテカゾヘガタケレバ稿ニモレタルモ多カメレ漢句ハ尚多キガ中ニ題ノ榮アルヲモテカイ並タレバ是ニモ雅アリ俗アリ看ル人ヲラミ玉ヘト云尓

靖齋述

葎亭畫讃集　漢和二躰

洛　嘯山著　李子流挍

大黒天玉とおぢ出したる圖

古人曰倉廩実而知礼節衣食足而知榮辱云云実然ふ安んすれよりく社稷を遵ふ中人以下い中く及ふへからさる

あゝ恵〳〵四民倶に玉〳〵ぬ孤よ有〳〵こそ意時も乃の汗掘とも新らぬへりれさるに来一福神とい大切ま

宝ふむへきすすんうし

ゆゝ〳〵玉や　千人お戎騰〳〵宮

大〳〵天樞を打居

多乃松たらぬ　勢の妙や　松離子

太こく乞食を描る図
骨折て鉢開して見ん伊勢秋の暮

大こく天秤俵の上へ匙さくる図
重限を祀さくや打出の小槌より

大こく天秤打る図
精出せハあくこのふなる徳への那

大こく天秤業の画
嵐まや渡りおのる蔵の川ふ姓

蛭子讃

円坐こせ擲文えしひまゆ待ん

円賛
中右持の人手
業ふとも綿まれ世渡巴蕉翁

恵ひすさる上よ鯛をつけし画
鯛付けるまゝ六福神とおゝ絶兄人宛

恵ひす大こく並ひゐる図
合壁やあしそしふれ笑ひ皃

帨子浄瑠理大黒之絵
布袋女木偶とまへ画よ
木偶あゝむし舞ひ乞ゑ手ぶ

布袋和尚讃 其圖甚類達磨

貌如達磨非達磨手中秉拂示人多
大虚指月如看月獅尾之功正奈何

友自画
恵ひの外薫賛
のすまつもり紀盗人や清ますされ

ほての伸さる図
永き日や何ゑ文へかりん之風子左

ほていからこ遊ひの画

長命縷山まて大ね笑ひあり

ほていの角力見物の図

又負てもちやふく都もよ菓子まきん

布袋かさをさしたる画

杖立て帯を結ひる縄襷

布袋さしたる傘あり
舟の文字書したる図

傘ひらく雨下すかりし宿乃それ

竹氏和尚再米汁ヲ
其後便正識ニ大戸ニ

娘の子と弄しき臥帰嫁加那

布ていの杖のさきに油坊を
さけて其の端に立帰れる図

かまの今そ男ハ嫁とることめけと

此の大化より伝わりし布袋大帰よ茶ふ大坊
盧て寺差引く先ん中大黒陶器に盆をとてつらひ
迎へらるゝ事よ贈して書家へ渡す寺にて時よ八十二
寛政十一未乃元日なり

子供やれ引よや屠蘇を殺さん

壽老人之讃

亀は萬歳は限りし使ゐしも

同
隠居ても米の老をとしてとらん神

福禄壽讃

惟天壽星　福祿備吉

人有誠心　各自授一

蘭の三面菊　島の牡丹　洲

同

南極老人　梳持の姿

神農讃

老子之圖

太公望讃

背面達磨面壁之画

初祖答一祖曰　今戯轉此詩

達磨の答

同

陽炎[illegible]行[illegible]

同

地[illegible]解[illegible]

同

[illegible]九[illegible]

同面壁

教外別傳不立文字

[illegible]乃[illegible]

一葦之達磨圖

菁英[illegible]師[illegible]

[illegible]人[illegible]

寒山拾得之讃

中[illegible]寺[illegible]

同

相遇如昆弟　掃除又筆硯

睡魔猶未醒　白露霑書卷

寒山詩曰

煩惱從何生　愁哉緣苦起

[illegible]屠[illegible]

拾得詩曰
各執一般見互説非兼是

[illegible]

[illegible]

酢吸三教之圖

[illegible]

同
[illegible]

同圖孔夫子
[illegible]

莊子胡蝶之画

[illegible]

蝦蟇仙人之圖

常翫蝦蟆頭髮乱蓬
呼雨吐月共在此中

[illegible]

同
[illegible]

鐵拐仙人之圖

[illegible]

陽[illegible]同[illegible]

東方朔 [illegible]酒[illegible]画

屠蘇[illegible]一[illegible]九子菓

長果郎讃

[illegible]菊[illegible]保命酒

陶淵明圖

心[illegible]酒[illegible]菓[illegible]

同 [illegible]画

[illegible]菓[illegible]

同柳下之圖

采附[illegible]馬ハ[illegible]如なり門[illegible]菓

柳下惠讃

水仙菓[illegible]白[illegible]

題蘇子遊赤壁圖

黄州謫居日 恬憺任浮沉

赤壁江天月 偏照此老心

東坡圖

素富貴行乎富貴素患難行乎患難君子無入而不自得焉者其人在此人歟其人在此人

[illegible]

醉李白之讃

杖入[illegible]俯く菊枕抱へ入り

[illegible]同[illegible]中へ手を挿

[illegible]同牡丹[illegible]尾の扇うつも

[illegible]同便殿栄夜郎謫飄然當笑

[illegible]盤の酒[illegible]

張儀讃

[illegible]を頼乃沙[illegible]の姫

相如之圖

[illegible]云ハ[illegible]

文君之画

琴[illegible]

明妃曲 王昭君之画

[illegible]に[illegible]の案[illegible]

同

[illegible]画師[illegible]の夢

雜句

[illegible] 同

朱買臣之圖

[illegible]

同

山中樵夫半書卷石頭ニ開ク

一任他嘲笑買臣今復來ル

淮陰侯画 韓信之圖

[illegible]

同

[illegible]

項羽讃

[illegible]

黄石公讃

[illegible]

留侯 張良讃

貌如好婦人 運籌決千里

早遇黄石公 晩思赤松子

報韓心既足官途淡似水

本是氣宇清　與信越異矣

同

同九里山之圖

同

孔明之圖

節家戎之ふ巻を分け給の松

關羽之讃

趙雲長坂坡之画

張飛長坂橋之圖

玄德孔明訪ふ圖

源氏物語の合巻の意を

盧生卧枕之圖

邯鄲城外黄粱夢古往今來覺幾人

一炊の夢の栄華の枯

養由雁を射る画

今宵の月あるかの月の雁来る

除福

買て来て蓮茎を煮る晩

揚貴妃之讃

枕乃死ぬ〳〵肥さい抵ゆへし

唐人之讃

[illegible]

蓋をとる鍋の合をすの

紅毛人菖蒲茗呑む圖

吹抜も模様の夕涼

同踊之賛

通ると[illegible]酒機嫌

八岐大蛇之圖

[illegible]

仲麿明州圖

[illegible]

西行之圖　四山應舉筆

[illegible]

在五中將之画

[illegible]

喜撰法師之圖

[illegible]

雪小町

[illegible]

清少納言之讃

[illegible]

同

[illegible]

肖柏手小[illegible]

牡丹の生花を横ぎん

秀郷讃

百くさへ新茅の帳下生

同 雲ゐのもしほくさ三年の霜

高徳橘樹に題する圖

樂書乃遊くこのみく所そ

清盛之画

常盤祇王佛と来るあつ山岳

妓王妓女

佛来るる秋よ遊ぶる草の雲

平時政讃

人をふるを以ふを巨靈ふる

同 弱けく廉よ人居るやとるとより

同 廉もに方しや人と義ふ穴

重盛讃

雖稱文武才氣宇明難解

六孫王讃

源深流迥唯是此神

七世忠勇諸家無倫

頼家讃

[illegible]

頼朝讃

元來粉糠三合身世人但識天窓大

忠文讃

[illegible]

信玄讃

既得息嬀還奪國蚤追蒯聵尚横戈

謙信讃

[illegible]

信長讃

[illegible]

光秀乃讃

[illegible]

宕山連歌　唐戸峻道

行不藏蹤　豈須焚稿

秀吉讃

年經ても十圍もすぐる桐の木

同

苔ふるを苔ふる所年ゆけて枝さみやけ

飛鳥井雅経の画　大雅堂芳

小西氏よりの訂炉なるふゆ

平家物語

寒ゆるまも稿くの表乃ふ毛ろう

玄旨田紅葉中古今傳授

楪手御座敷柱ふりと新れ者り

宮女讃

腰細如玉　知應自傲

若遇楚王　更漆所好

命婦　夜ふけ女文第りてる

下紅二人浴れ画

古代曲乃しまの部ナ元の文つのひ

御殿の月獨[illegible]あるあるじ

世の[illegible]
帛紗包[illegible]

[illegible]

被女老[illegible]連[illegible]賛

おもと[illegible]成帛紗包[illegible]入る

老[illegible]河[illegible]する

[illegible]

秋怨

秋至深宮夕　玉階露似銀

抱琴欲遣思　簾外月窺人

あれ草[illegible]

美人醉臥

[illegible]

背面美人

[illegible]

深窓美人

[illegible]

美人餅花を作る

[illegible]

同梅をあらう画

やり梅手ぬぐひ乾かれ

美人讃頌

婢約暁粧成ル　瞻望朧月傾ク

杜鵑如レ一ト見ハ　樹裡却テ来リ鳴ク

俤もしるし彩ぬ形や美人姿

二美少年撲螢圖

携フ手ヲ龍陽貌　高ク呼ブ水樹際

教ヘハ螢ヲ若キ人情　應ニ惑入ル何袂ニ

咲ぬるも　あちらこちら　染し　花あるる

花ぬ　出福の愛　も面　あもるる　被う　郡

臭咲　同賞物の景　あつち　へ迷る　螢　か郡

旅　而ぬ　男女　寄　寂りなる　画

お宮　七　據　ハ　せ　し　花の間

舞妓

風俗非往古室君白女態也　比中世祇王静等

則尚殊的或北條豆利之時世歟柳國初風流歟

治遊　ぬ　據の　袖や　ぬ形も

妓女之圖

送故遠彭是妓女之業

同

同

法橋春甫筆

牡丹

同

同

同

同

同悪面之画

禾九之賛

醜女身を省る器

學西施捧心顰者也自羨之歟

辻君之画

出女之圖

同

室君跨象圖

芙蓉之面直妖冶　粧得誰言眉黛假

蕩子如生染着愁　六牙白象雲中下

同

出家の姿上人生涯の業障を懺悔せんとて宗門の
法師の江口の里に遊女乃今様を求られし和歌乃
編者ともに撰集抄に
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三味線を弄ぶ根人の姿哉

空也上人之讃

[illegible]極楽と聖人合掌業哉

一休和尚の法語を写して
[illegible]

近[illegible]梁[illegible]大る[illegible]

鉢敲之圖

霜華馳道遍　烟樹禁城深

[illegible]

茶筌賣之画

[illegible]

[illegible]なる包み物り幸の[illegible]

樵夫之圖

[illegible]眠[illegible]乳乃法

住吉踊 [illegible]社頃画[illegible]

踊[illegible]神へ[illegible]ん 汐干潟

同 日盛り[illegible]も神秘を組[illegible]

少年行司之讃

[illegible]負[illegible]る図ふも

木偶遣ラ之圖 傀儡師也

眠る[illegible]指[illegible]と[illegible]より

同 花[illegible]猫股そ

桶取之画 洛壬生寺狂言

三[illegible]

奴之鳳巾上ル圖

京遊[illegible]一興

大原女讃

洛城三里路頭上技難施

[illegible]

同 [illegible]

同 秋[illegible]小傷[illegible]乃日御[illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]山へ[illegible]

[illegible]や日毎乃[illegible]通ひ

同 [illegible]の川[illegible]春雨 法橋春甫筆

[illegible]

同 夫入山中 樵 母女戴尚市

[illegible]

僧女[illegible]

[illegible]

菜門之圖

[illegible]

俗家七人[illegible]

七夜の[illegible]

[illegible]漢古人[illegible]

墮ちよりやうやうに人を殺の針をしし
（汐人の画）
蝶の眉ひらかせ（魚籠の絵）
一言に元元員戦引く圖　原在中筆
蛇手柿及連行ひや小唱ふし
俱利（同）伽羅の谷をうへや五月雨
ふるを伏せ（盗人の画）
木偶讃
廣幡前内大臣前豊公（まさ雲公三樹橋雅園亭へ頃歳の附合と家りて歌ふ）

蛇の婿乃通ひぬ那や金法沙
捨ひ人（人形遣女の歌）
外孫を松浦へやる河原面よ出船る
宝行ぬかつをり音つ山ぬ弐
抱ひよりう（万葉之歌）合よりり居御
茅案（同）よりる水兄弟も手鳥帽子
白丁の稲中ひりう解る宮
はさ取りし清吉の又五郎ひるやあん
のさ百戦清盛の山も笑ふて

[illegible]

[illegible]

小[illegible]を遠[illegible]

[illegible]

四天王酒盛之画　細[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同時扇面二章

川[illegible]

[illegible]

三夕画　浦乃笘屋をさそふ

酒[illegible]

宗祇[illegible]

梅[illegible]

六俳仙之圖　守武　宗鑑　貞徳　貞室　宗因　芭蕉

[illegible]

[illegible]

一六ゆゑ遠くおかしき雪月花
季吟直蹟小歌をよせかきれく
うぐひすの鳴かぬ墨ぞ芳しそのかぬ中

貞徳公羽讃　寄節家藏也

徳撰イ　琴付きをあり花の色
同
ふさしし月ふかくあはれ傘
芭蕉翁讃
月花の色ある者かな

同
正直れ者のさくやの千代の秋
同
去年をいはれとくの雑巻也
同
ものもなくん寒のあるべくこそ　月偃華
同　契ゆ公義よりのその白玉　長崎北右家藏
永義よこ之度よりしのくもかんこる
はる義西行宗祇の法を慕ひ罪業の生涯を
ねくそれを修行の骨肉とせんそ信誠深く
おくうもの
ものの表や出女り砂を形しめす
同　半身雲霧の如き圖ユ
格を拵をも拵もこそ云さる月もあり

同讃

生於上野　卒於浪華

花月遺跡　風水生涯

[illegible]の墓の力やあらむ

麦苗[illegible]

ある人の[illegible]

[illegible]杖[illegible]

五人[illegible]秋の夕[illegible]

[illegible]を巡り[illegible]

言水自画讃　婦人の[illegible]

菜[illegible]折[illegible]

亡師宗[illegible]

[illegible]

寫真画　葉亭家藏

[illegible]

先達乃墳[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

享保三戊三月廿五日生天明四辰七月十九日書時六十七歳

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

晋子画　[illegible]

親里[illegible]

其角句一軸

[illegible]

[illegible]

孔雀之画　若仲筆

[illegible]

丹頂鶴讃

仙骨清操毫無嫵媚之態

[illegible]

一陽の[illegible]　松千鶴の[illegible]

[illegible]　[illegible]の画

脊[illegible]　小松よつる

[illegible]　鶴の字孫乙鈔八菜筆

[illegible]　鶴の字

[illegible]

亀之画

蓮葉の[illegible]

同

いと[illegible]

子[illegible]七歌[illegible]

源[illegible]

六つ[illegible]

尉[illegible]

同

巖頭雌引子　水底雄逍遥

[illegible]

若松之圖

吹[illegible]

同

媚[illegible]

同

[illegible]

松[illegible]月

月[illegible]

松[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹之讃

[illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

同二株

亭々雙立　金露氣清

山頭吐月　光彩更生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

墨竹

掌の記したる雀なれ稀なりこの春　金玉蝶筆

此画ある扇面にかきて我家の台を出て旅まるにあらねど記す

節齋之竹
香卿音之樹

初雪を竹のなかに袖もこぼしけり

骨なくて竹と並ひぬ冬木立

題竹

弄雪恐壓竹　護竹惜落雪
遥嶺朝曦昇　枝々拂玉屑

筍賛

今さらに雨後つゝ浪涼の出とくさを

根笹之画

嫌しつゝゆかる雀の寺や冬の雲

題梅

紫帽照眉童上閣　玉釵刷鬢妓拋杯

梅ふしし根まても枝を折れける

同

誰家白梅樹　玉骨數枝長
黄鳥如來囀　芬々相和香

春の香も去年に戻すしら梅か

同
宇ぬ気や凍れ筆の解けそめし

梅に旭あしらはれたるに
鶯の笑顔に朝日し風情かな

梅に旅姿の画
旅すがら宿りかたし梅日和

梅に三日月乃画
やうやくと見ゆる繊や弓乃影

梅に月
梅咲し香に薫れる月の貌
表具師継所筆

墨梅
浅きの墨ら散る墨の白ひかり

紅梅の画
よれきらん隣の宿も早白玉夫

白梅に日のうつりし図
咲き競れ白ひや春のうく曇り

吉野山之圖
千本乃花に抱れて暮らしけり

題琹
山櫻與松樹相映競春光

風情ある松乃写の山さくら

嵐山之圖
落花く屋根もうつりん三軒屋

同
まつの程さくら植たし嵐山

人去て　雨中橋の景
[illegible]
おきのけ　奴橋より出船に乗る景
[illegible]
野橋　橋よりかなたの賀
[illegible]
[illegible]　二人切り
[illegible]
[illegible]

雛祭圖　元陳画

[illegible]
[illegible]

[illegible]　和歌の部　雑部
[illegible]

雞合之讃

[illegible]
[illegible]　鶏の画
[illegible]　若仲筆
[illegible]　庭前の賀
[illegible]

柳之讃

[illegible]　たなびく行の[illegible]の白糸
[illegible]

同賞
[illegible]

同樊
[illegible]

同烏
[illegible]

同斷
[illegible]

同雨中樊
[illegible]

同小雪
[illegible]

同翰
[illegible]

晉子眞蹟

夜の山　於虫や松陰先へ[illegible]
年々悔　[illegible]

應角上之需
お篇ハ昔[illegible]
[illegible]
過山といふる杜[illegible]
[illegible]
生[illegible]

夏山之圖

一[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

蓮よ笛ふもうりせ　茅舟
仏生会　杜鵑画一号
灌仏や　妙なる琴するり
天然寺　寧隙
かとうすの号子賛す
不如帰　とんぼ　英りん

花鳥之図

鶯の尾ふとりゆるる春　拙
麦刈　翁
笛もうつ　冨
雞頭花　小雪の画
虫とうんうく　鳴ふ　月也　ゆ　逸

鶯の契
石川や　涼　鳥なるかしら
行春　芦子
鶯　新れ　秋の
枯芦
白さ　の一入　寂　紅
鶯
路　る　跡れ　乃
川
蝶　ちる　雑候　かの蓬の義
探山筆
芦の花画
蓬　ふ　蓬ける　芦　絵
芦の穂
ふ　ふ　蓬　白
割れ
英　寂　鶯　乃

椿五十雀圖

試問裏蓬凄雨夕其何遲日暖風時

[illegible]

[illegible]川へ已うの月を射る弓乃影

[illegible]

[illegible]

雪中烏

宿雪皚々　飢烏敲羽

飛到吾庭　正使渤哺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あちらこちらもかふり付角もよし石梅花　蕭白画

蘆雁之圖

浮あくる旅乃睦まや蓑一稜

獨寐（同）の法りの花月乃孔雀芦　元陳筆

月よ（徳利の名）今宿なく宿なく秋乃月手立つくし

蘆雁

蹐（テハ）足（ヲ）窺（フ）魚兒（ヲ）閑（ニ）立（ツ）沙汀晩

無（ニ）今（ハ）碧樹（ヲ）枯（ラ）不（ニ）妨（ケ）巣（ウヲラ）池苑（ニ）

公乃（小春る者なる画）代乃手ふ公遊や小春乃狩

畫鷹讃

碧巖（ス）回（ス）頭（ヲ）逸氣凌（ヲ）曉（ヲ）

雛（尾）（ニ）未（タ）搏（メ）（ト）時（ニ）目（ニ）無（シ）凡鳥（ニ）

鴉（雀）色〳〵やうてふ物手（東洲筆）成ぬ屋し

月（雀）（雀まゝ格と米し）（ニ）桜ちと鶯（ニ）ちらし友ちめ

雀啄稲圖

有（テ）年田野闘（チ）鳥雀喚（テ）相和（ス）

香稻都牧太　猶知遺穂多

多入略の為　意與半

ちぎりの多　垢離かく人乃　学のひろん

昇り降り陣り就之器

ちぎりてん九　事の葉や後て今

厨もゆ　沈へ下りる　夕べのもとみ

象と象

鼻のもと　引角力　飯食出ん

睡虎と象

牛てるの居す　むらや寒時夜

獅子牡丹湯

中より北獣　ちん五　ゆく花乃五

牡丹ヲ捺

猫追ふる　屋を沒るほうん多

岩窟ヲ

世間を獅子　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ

穴熊ニ松之圖

輕健攀ニ高樹ヲ　迎テ冬ヲ深ク蟄ス窟ニ

假令ヒ称スレトモ逸才ト　莫顯スレ胸間ニ月ヲ

外猪熟

如毛も　ゆゆ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ

義よ猫の家

ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ

猿菓を柔乞する家

ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ

猿猴

ぬすと人の名をとられけり

月柿をとる図

のひるとてとられけり

月月をとる図

宝引の樓りくとられけり

小桃灯之讃

ひとりおれ月よ幾夜の宵の寝

狗子之讃

雪の夜や内へ来さんとうろく

同蔵を画たる

人なつかしや拵をとる妻子

同ゆるす歳る図

遊ぶ子も家ゆるされて六つ花

百牛之讃

可ゆ神遊ぶ子も永き日御ゆうれ

双馬樹下小戯る図　芝村茅

牧人の子の萩ふく笛者ん

馬のかさりる　稲嶺筆

ぬ牛ひるん野乃秋

月の出る又定

月の出る弱雪ん手ゑ

同
雲の峰ゆ波千仞を出でゆり
岩ひ夏ゆ世を出でゆ海まで穿ち出て

白鼠之画

鼠ふとりて左顧の主　この方

嵐雪
猫ちやよ分く程を咎ふる
物乃人をとりて月ゆ寄る

嵐雪
鼠ふとりよ画
彩田姫彩りくうづ絵出たるつ

嵐竿
魅よ分く契
引くに引け踊とる夜の樣ふ物

嵐蹊
ちよの引し
うなゆ笑ふくゆ海まれ盗ゑ咎ん

嵐蹊
ふる
うゑ居くゆ捕まえられふ夜乃花

猫の吹矢して彩の嵐を祝ふる
稲妻の彩ゆ花ゆ出るゆ花ゆ臭

蛙乃堰ふ二つ上ゑ居る

嵐竿
蛙ふくふ子よかゆふくる蛙ふ那

嵐蹊
蓮ふよの引し
うけくふ蓮ふくふの力ゆ出ふ

蛙ふ
日ふ出ゆ蛙ふくふ蛙ふ

蛇之画
ふくふ出ふくふちよと画源へん蛙蛇

同
雨後ふ出ふふ安乃蛇

文子が蛤蜊画しゝ扇面

日盛りやとの子千待ミて汗入ん

笠翁子にかんに

ミや雅揮さしてある秋の暮

螢の賛

宇治見えり傘のもんや五月晴

さんだんきびす子蛤の句

花の香を吸ひ入てこよ秋の蝶

蟷螂

雪の世紙切合好や瘦法師

秋海棠よむしの句

花盛りなくさとてぬれぬ虫の[illegible]

秋くふとやみやうり丹の画

力ふと手のける[illegible]らしき葉穂も

鰷之讃

[illegible]して[illegible]れ[illegible]の[illegible]

同

川[illegible]り付[illegible]る思[illegible]附

[illegible]の鮎

[illegible]や[illegible]を呑し[illegible]なしめ

雛之画

[illegible]れ[illegible]蒔[illegible]藤の[illegible]

同月あしらへる子

[illegible]すてらまかくこそえ[illegible]り

河豚之画

おもし[illegible]かくして[illegible]けよ[illegible]

同

[illegible]も[illegible]の[illegible]上り

十三葉子河豚流るる句

[illegible]さし合[illegible]ぬとし[illegible]れ

芦の蟹

同

石の蟹

芦の三日月落る画

蓮の葉の蛙の落る

蕭蔔

芙蓉

蕣之画

春艸画香包

探索 慈樂

孫舟合画

土筆之画

同

菅草之画

蘭之讃　蕭白画長沙示し

葉乃香や　脊丈ケ伸くる　法子

同

觸れよ葉の　[illegible]

[illegible]　人船の[illegible]

枝栗く画

[illegible]の花の　[illegible]

同

椎果や　[illegible]　[illegible]流し下

破芭蕉く賛

[illegible]　[illegible]　[illegible]　秋の後

大菊之賛

九月の盃は　[illegible]ん　籬ぬん　下

[illegible]　[illegible]　[illegible]　秋の際

[illegible]　[illegible]　[illegible]　小盃

童　[illegible]の画

月僊筆

菓　[illegible]　[illegible]　菊の[illegible]

枝　咲倒れ　[illegible]　[illegible]　月の[illegible]

葉き

秋の[illegible]　[illegible]　[illegible]

享和元酉の春仙臺侯[illegible]中に人別業示し[illegible]尚歯

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

瓶中の仙之画

[illegible]　[illegible]　[illegible]　金盞子

[illegible]

墨蘭可笑　無色無香

野狐如見　豈其來藏

小松の画よ

[illegible]

大根葉の画

一軸の賛　[illegible]

長瓢之賛

[illegible]

[illegible]

小芋の画

石榴の画

[illegible]

不二茄子之賛

[illegible]

并瓜茄子之画　茄向行瓜曰

[illegible]

大根賛

[illegible]

同

二枝

[illegible]

尾張大根

[illegible]

一ツ　[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

海日圖

東海天雞叫宿雲紅欲裂

波瀾擎大陽先照芙蓉雪

富士之圖

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

田植

[illegible]

舟之送火　西賀茂

[illegible]

題画山水

北風吹雪滿江城江畔連峯竹樹横

憑檻空憐何處客長汀日暮拂蓑行

[illegible]

[illegible]

同

落日飄紅浪高林拌碧霄

欲窮孤絶處藜杖過溪橋

同

雲の尾濃くあらん海のなん

同

清やかに月の出や松柳

同

とくとくと七つ山入乃芝居哉

同

両崖高樹参差合一片輕舟直下來

舟中夜渡

崖同

崖くるし〳〵蛙の鳴やあらくる

同

蹴かれ〳〵ふるも赤くる涼山陰

同

雪けくふ蓋形てゆけ長悦

同雪中景

茅屋雪ふる鐵鉢の梅毛ぬ雪

同冬之景

山ちつ〳〵眠る鳥ぬ人舍

東路の雪ゆくに鳥画ふ

鳥乃簾哉

旭日雪後輝晴雪

雀飛方索食

童爲噴八々聲躍下階除側

千種參議源有文卿

[illegible]

方朔ゝ[illegible]

孤岩圖

[illegible]

画[illegible]

男郎花女郎花圖　大雅堂妻玉瀾画

子と連ー　宝船賛

入らへの七ツ成へし花蔵し

[illegible]舟の[illegible]

題釣舟

天晴烟樹碧漁叟釣江流

吾亦將同太舟中有酒不

同

[illegible]

同

睡裏乃夢やすし探宗祇　樵枝

[illegible]の画

[illegible]月夜[illegible]

[illegible]

桃河　大橋之賛

[illegible]

川[illegible]

雑句

下[illegible]　大和[illegible]の図

[illegible]　舟橋の画

[illegible]　[illegible]の図

[illegible]　[illegible]の図

[illegible]　三番叟賛

[illegible]

[illegible]　同

[illegible]　高砂　謡曲

[illegible]

望月　同

[illegible]

傘　末廣之画　狂言

[illegible]

梅　同　菴之梅

[illegible]

[illegible]　釣狐

雑句

白[illegible]　同

[illegible]

[illegible]　同　六人僧

[illegible]

射　勸猿之圖

秋　同

小鼓袁革の鄙

扇之賛

同　新老の人より送る

大夏紀州へ

俊中二万郷とのへ

人へ扇面より出す送る

亀寓二つ茅の下　俄　幾藤

涼　團之賛

人　同

中　同

杖之銘

杖　人の虎杖のつゑおしたる

書　硯筆讃

七夕　八重垣硯より

涼　二見硯石之蓋　より出す

[illegible]

[illegible]

中立賣原氏家藏

聯

鳳闕和風帝鳥麗　龜橋纖月細雲鮮

月[illegible]　表具師の聯句

紙[illegible]　ある人へ聯をもとめ[illegible]

急流勇退

[illegible]

額　題内山氏網島別莊

山連河内水華津　相接櫻宮緑樹春

想像行舟來往客　仰觀高舘醉醒人

代書祖翁　十歳　乙龍

[illegible]

[illegible]　花生賛　天人花と以て[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鞍馬山一切の竹を殺生を禁じて
渇きなくしては殺せしに

すりこぎと鞍馬に生きて死もせし

魯元と云る者の死生を尼僧寺防禁して
遂に私方たひりを殺手寄よしを記る

御くらに出たかくらに其加や竹の奥

香合

浪花の親去と云る者自ら居宅にて香合を
浅きより字承更手鏡を清く藤右と号する
よしかふかるをよしきを記る

薫りたつ梅乃匂ひや藤の月

家中四道神の局

袷きてく娘に梅先房風に猶呑ん

碁打く手を争ふ画

角力たつ川くらへはとそ上り鶴乎

機を殺人作る局

鵙さ口へいさりく粽蒔めむし　春卜華

播州三木中大石氏なる松の樫と簸を
傍人なる出手て台勃をせられしなり

蒂むてるむのしや何の文弓始

家卜ヶ揚弓箱よ張川の蒔弦あるよ

一意ふつく振射屋きや抱出ん

飛雀ゑんさなま

袷出をこそ中寿来ん守すらひ

同

すゞしさや袖を吟清く梅生

さる人後をさんしくつくすかにて
寺まらふ布ちなくよく先生しらん

接あつもの次第乃本の家紋

月見の図　提重ふ陶器仕込

五節画盃之讃　漆畝作中村八郎兵衛形物塗師之名家也

正月　麻裃の名入代る礼者の郎

三月　吹出したる月ゝとゝ子の日の海

五月　垣生ゝも松のこゝ子祝ふ節句武

七月　皆ゝ出ゝ仕ゝし家の紋

九月　あゝゝめゝゝ酒のめゝりや小袖机

蒔画の盃　紋部紙表ゝゝ世のゝゝ文ゝゝ

盃の塵をゝれ掃物　長日　山

同　一ゝゝけて祝ゝゝ紋こゝ三稱

五三桐之盃　吸ゝゝ二ゝ稱菓子をゝゝしゝゝ

高尾山と云る盃　名ゝ木ゝゝ雪ゝ酒的ん

貝の盃　笑ゝゝ戸の事ゝゝ小ゝゝ踊ゝ者ゝ

盃洗ゝの変　掛ゝ者ゝゝ下ゝ乃鼻ゝゝ惜へし

八十四軍の妻盃を呼ゝゝ出ゝ　妻のゝゝゝ人ゝ板ゝゝ三ゝ賞妻ゝ

醉月人の賛

天上の酔月人の一夜あるの心

別業の景のふくさかを菜とる山ばた哉

冥加あるを門侍所の拝たる人随先

四季子画屏之讃

嵐渡船を引とる人杖ついて遊雲

屏ぐるまも後村ひとり哉

芦の中の婦人琴を弾くを

舟中の男登りて藤をうゝ伝ふ

涼しさの流るゝ水や藤入

解移りよ金ちりけてとゝ弟むる

お使ひ河あるゝひとり酌ん

節季ふゆの号

あるゝの木乃丸 屋中 節季ふゆ

洛島原

不夜春示一軸　四季之句并序

世の中乃昔ゆゝ今さらし花ちるすをとゝうゝ月れい

ゆる剃にとゝうゝ人ゆゝへ乃上ゆてまゝふゝとゝふゝ百ゆ

一ツ二つ四あゝんさんとそゝ乃ゝ後よをゝとゝう

のゝゝゝゝゝし九三ツの表を絵ゝて陰陽所某師筵

絃画等乃影ゝゝも何の色ゝう古へ手掛りとゝ彼の金ゝ

心ゝゝれと九一筆のみなれい者も宝あ千ゝつゝゝん孫

ゝちすゝれい今も千ゝ人のゝゝゝゝ心地をゝゝゝ

ゝゝも誠の恵てふ物の後ゝゝかゝ和のゝゝれ藤ゝ人の渡

乃けちゝゝ解ゝゝ一筆ゝゝ来ゝゝん庵ゝゝ下ふゝゝ

ふゝゝゝ後移ゝゝゝあゝゝゝゝと世ゝゝ白ゝゝ死の御ゝゝゝ

く柳ゝゝ下ゝ花ゝゝ表ゝゝ

こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海棠の引ける蜘の眠る郡
月の晴れし柳の蛍籠
鶏の声ゆかしき家ありのまの
鶏鳴の籠の鍵や東寺九條を
行
又おなじ一句
遍て雪月夜
蓑笠館記 此后より行を棲る記を彩る記に書す
行俱て宮ゆかしん此日暮
鶏の人乃主も苔し菊畠

去滿舊友祥禾彼此行口ずさみ程去拙二人孟浩浪居蓮律ずの号を出しめ彼り来る
手謝して霊巖寺ずの御葉をさんやり侍る席七律
一首彼り寄ずて八句を沢ずそれとも左ふ云ず侍
滄瀛萬里隔西東
八ずの海やゆかしし
還喜雙魚一水通
初夜鐘乃後れる寒蟲
暫繫行舟瓊浦口
酒ずや日ずも侍る泊舟

齊傳健筆鳳城中

茅ぶきの都市ぶりなる

鄉關遲日釣蓑望

[illegible]

海驛春雲過檻空

[illegible]

不是清平隣好久

[illegible]園

茅居何榜二王風

[illegible]の額[illegible]二面

中[illegible]雷盆雷木之画

[illegible]豆腐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

園居[illegible]

[illegible]灯の[illegible]

[illegible]園の[illegible]

上[illegible]殘[illegible]股肱の[illegible]大三十日

[illegible]至[illegible]より[illegible]世[illegible]返りも云ふ立会[illegible]の

[illegible]法[illegible]寺[illegible]大堂の[illegible]より[illegible]御[illegible]尾ふも

千[illegible]張[illegible]の帆[illegible]出[illegible]張[illegible]より[illegible]よ[illegible]

土[illegible]

富士之益山

[illegible]

雜句

[illegible]不斷[illegible]富士[illegible]益山[illegible]

[illegible]吉野山益石[illegible]の[illegible]

豆人[illegible]城[illegible]の上

雷神掛蛛網圖

俗曰雷不克敗紗幮然則蛛網亦同乎彼炮[illegible]不

賈幔理亦奚疑

[illegible]柳[illegible]

雨中狸

[illegible]撲[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]古[illegible]

妖物やうつくしき
見越入道の絵
書写山の物語
裙帯の幽霊の姿
穴目〳〵
月〳〵
光琳妖物画
一軸の幾世経たるも
死霊圖
梅きん妖も

髪乱顔如怨　裙藏薄霧中
相看君勿厭　衾枕幾回同
大津画鬼念佛讃
波羅蜜を付て鉢入きん
鬼二疋土蜘蛛の眠る屋
小鬼柊の樹に上りし圖
取流行歌語意
怜汝貪肉　攀樹苦辛

樹高ク枝寒シ 其葉萋々タリ

刺キ眼ヲ刺レ鼻ヲ 兼テ又傷ル脣ヲ

如シ遇ニ鍾老ニ 應ニ道フ非ズト眞ニ

送りこそかすかすりせれ花の比 ○の神ゝ爲

蝶うしやむかしり鎖つゝ咲れけり 安良爲ふ

飛梅のかおりや誰もとも 波廣天神像

路まてく汐干にやよる花月舎式 復吉の爲

文臺裏書

七夕やさん芋の袖

梅北中に流へ川つくし

空合に綿むつまりや花の友

月雪に世はやむ筆の花し

こゝろへく橋負ちし名のあら式

遊ゝるへつ蝶意己ゞ業 書寫文庫にて

寛政三年の夏 年の暮 倭玉棚にて書よ

うゝ月も年もえと子の号ゞ所

享和元季辛酉三月二十一莫

蒔亭畫讃集終

跋

哭山の陽子も亦事をなく拙筆をなし
て反覆するもの也の流を弱をすす
めきよりもあるべきを三種を陽を
切磋琢磨の功ありて於の光を輝かけ
るをうて世と傳ふさまを物の類似を人
乃取捨をよるやうの河蒔をうし

を傳聞のみ多く百家の古歌
五畫の作を尚獨して古人を友とし先
聖の學ひとえに世教を主とする例に
て詩をもてこれを弘の古調をもて
ひ其間に高壯なるをもて如今勢
らもて新高遠なる事業の新事
なる因事業の業を稽うる和編

を語言のもとにみよ掃除塵埃
是邪江湖を廣ふせんとせば詩を
もとめらるるとうとうとうとする人の信ずる
あるべき移を校合するを可なるかを
らず傳ずるを識るべき方擬周を御くべき高岡
者まもなくもなしられし度誠の作を秘
めて貴ぶべき高ぶるべきを彼他山の石を以て

西園寺政長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冠者齋宮記

享和紀元三月四日了